

**平成27年3月期
第2四半期決算 説明会**

2014年11月17日

阪和興業株式会社

- ・ 売上高は、鉄鋼事業や金属原料事業の増収などから、前年同期比8.9%増の8,611億16百万円となりました。
- ・ 利益面は、鉄鋼事業やその他の事業の増益が全体収益に貢献し、営業利益段階では28.4%の増益だったものの、為替差損の発生が下押しし、第2四半期純利益は前年同期比5.0%増の39億81百万円にとどまりました。
- ・ 通期業績は、以下を見込んでいます。

売上高	1兆7,500億円	(従来予想	据え置き)
営業利益	198億円	(従来予想	据え置き)
経常利益	175億円	(従来予想	据え置き)
当期純利益	106億円	(従来予想	据え置き)
- ・ 配当については、中間配当を7円50銭に増配し、期末配当も7円50銭とすることを予定しています。

経営成績(連結)

(単位:百万円)

	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減比
売上高	861,116	790,724	+8.9%
売上総利益	27,369	24,345	+12.4%
販管費	18,350	17,321	+5.9%
営業利益	9,019	7,023	+28.4%
営業外収益	1,301	1,651	△21.2%
営業外費用	3,460	1,923	+79.9%
経常利益	6,861	6,751	+1.6%
特別損益	—	△283	△100.0%
税引前純利益	6,861	6,467	+6.1%
法人税等	2,852	2,658	+7.3%
少数株主損益	27	17	+58.8%
四半期純利益	3,981	3,792	+5.0%
包括利益	7,388	12,771	△42.2%

・売上高

主に鉄鋼事業、金属原料事業の増収により、前年同期比8.9%の増加。

・販管費

前年同期比5.9%増加。
(内、新規連結影響3.5%)
人件費約+7億円、貸引繰入約△1億円。

・営業外損益

東京鋼鐵の持分法投資利益54百万円計上。
上期終盤での急激な円安進行により、為替差損約12億円発生。

・1株当たり純利益

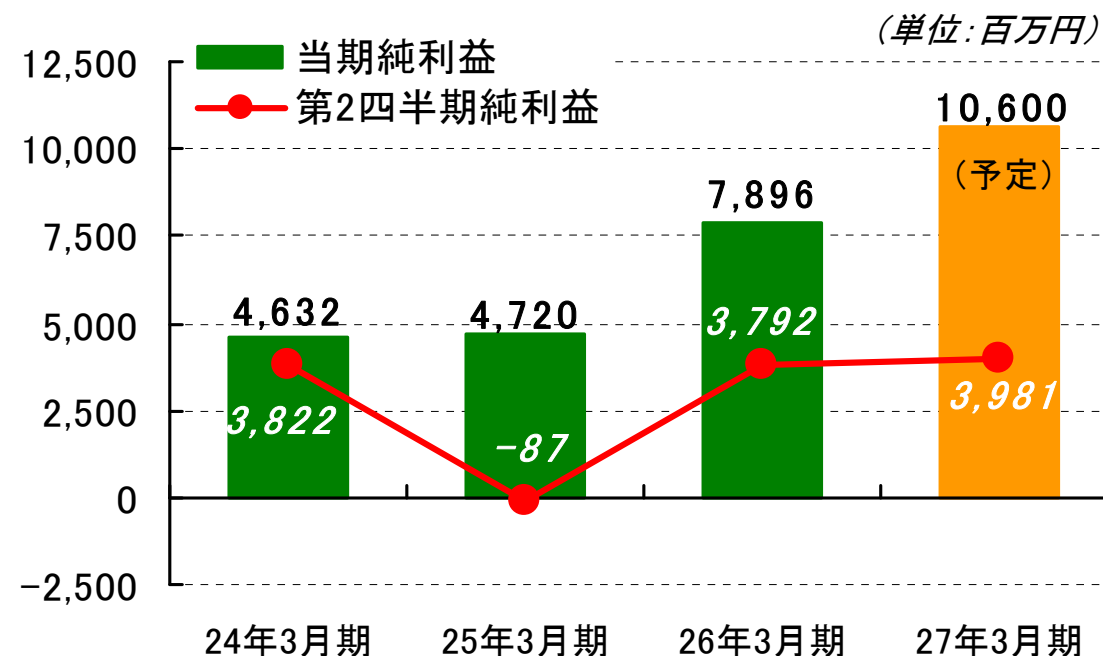
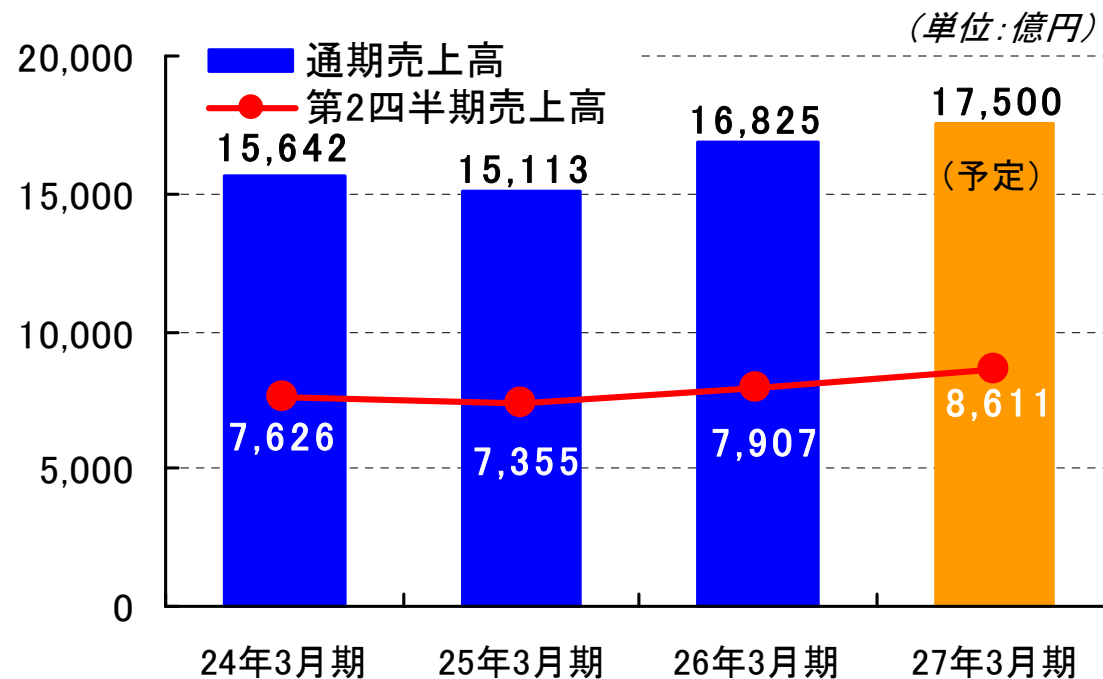
19円21銭(+0円91銭)

業績推移（連結）

米国経済は堅調、欧州経済は停滞、中国も安定成長方針により成長力が低下、新興国も金融環境や地政学リスクにより停滞感があった。

国内需要は消費税率アップに伴う消費減退や人手不足による建設需要の停滞等により、アベノミクスや日銀の金融緩和効果が減殺された。

第2四半期までの売上高は増収基調を維持、利益面も市況が比較的堅調に推移したことから増益だったが、為替差損の発生により最終利益は下振れした。



(単位:百万円)

	当四半期末	前期末	前期末比
総資産	649,342	593,351	+9.4%
流動資産	520,763	468,325	+11.2%
固定資産	128,579	125,025	+2.8%
負債	517,098	467,989	+10.5%
有利子負債	278,865	245,906	+13.4%
純資産	132,243	125,361	+5.5%
株主資本	125,805	120,733	+4.2%
その他の包括利益 累計額	5,318	1,875	+183.6%
少数株主持分	1,120	2,752	△59.3%

・総資産
売上高増加に伴う売上債権や
たな卸資産の増加などにより
、9.4%の増加。

・有利子負債
短期借入金・CPの増加など
により13.4%増加し、ネット
DERは2.0倍に上昇。

・純資産
四半期純利益の積み上がり
やその他有価証券評価差額金
の増加などにより、5.5%の
増加。

自己資本比率 20.2%
(△0.4pt)

1株当たり純資産
632円78銭(+41円10銭)

キャッシュ・フローの状況（連結）

（単位：百万円）

	当四半期 （累計）	前四半期 （累計）	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	Δ24,679	3,423	Δ28,102
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ2,036	Δ3,739	+1,703
財務活動による キャッシュ・フロー	31,946	2,261	+29,685
現金及び現金同等物 期末残高	21,559	27,097	Δ5,538

- ・ 営業活動CF
売上高の増加に伴い運転資金需要が増加し、約246億円の支出。
- ・ 投資活動CF
投資有価証券の取得に係る支出などにより、約20億円の支出。
- ・ 財務活動CF
短期借入金・CPでの調達増加などにより、約319億円の収入。

事業セグメント別の状況（連結）

売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	423,679	379,153	+11.7%
金属原料	65,447	46,969	+39.3%
非鉄金属	41,584	37,330	+11.4%
食 品	43,920	39,361	+11.6%
石油・化成品	231,193	230,911	+0.1%
報告セグ メント計	805,825	733,726	+9.8%
その他	115,930	98,826	+17.3%
合 計	921,755	832,552	+10.7%
調整額	△60,639	△41,827	△45.0%
PL計上額	861,116	790,724	+8.9%

セグメント利益

（単位：百万円）

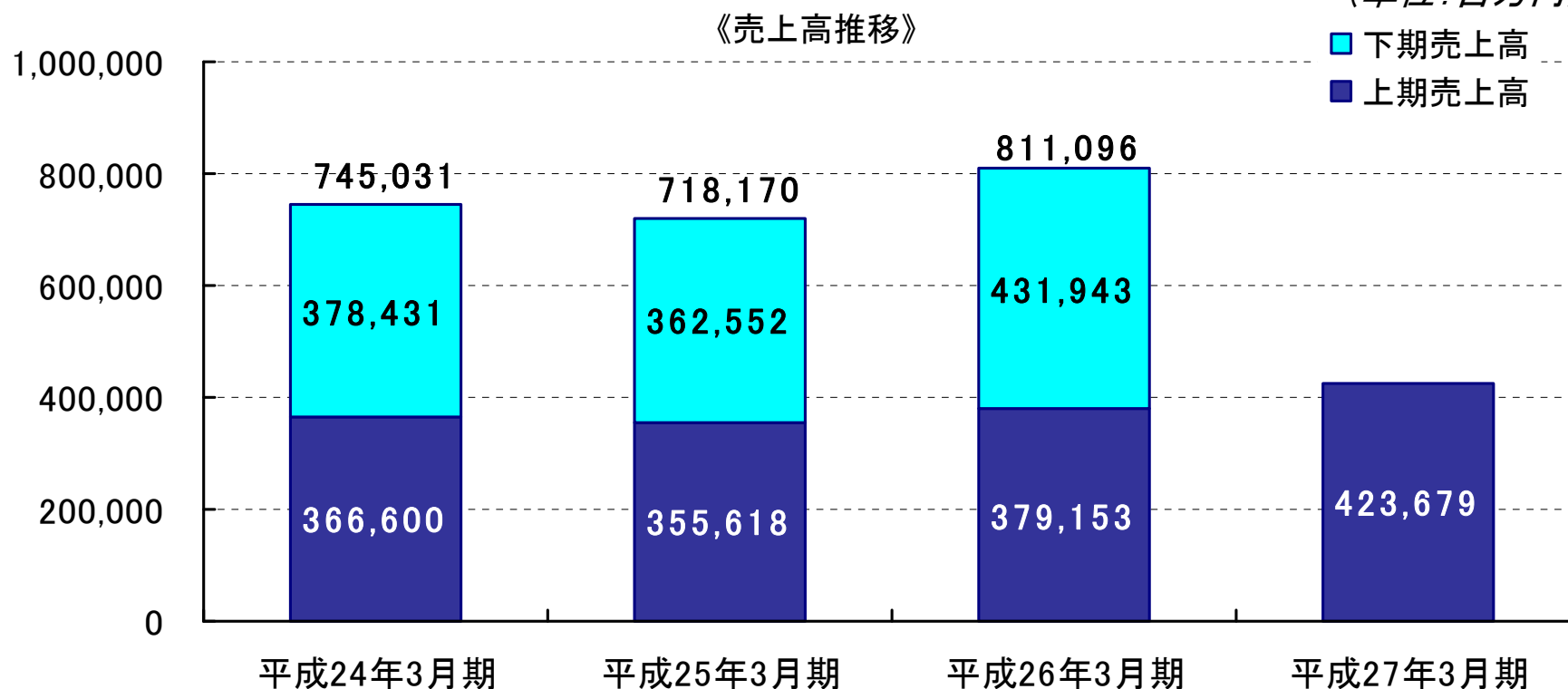
	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	6,810	6,061	+12.4%
金属原料	△27	1,140	—%
非鉄金属	175	682	△74.3%
食 品	593	793	△25.2%
石油・化成品	1,204	811	+48.5%
報告セグ メント計	8,757	9,490	△7.7%
その他	355	△188	—%
合 計	9,112	9,301	△2.0%
調整額	△2,251	△2,549	+11.7%
PL計上額	6,861	6,751	+1.6%

(単位:百万円)

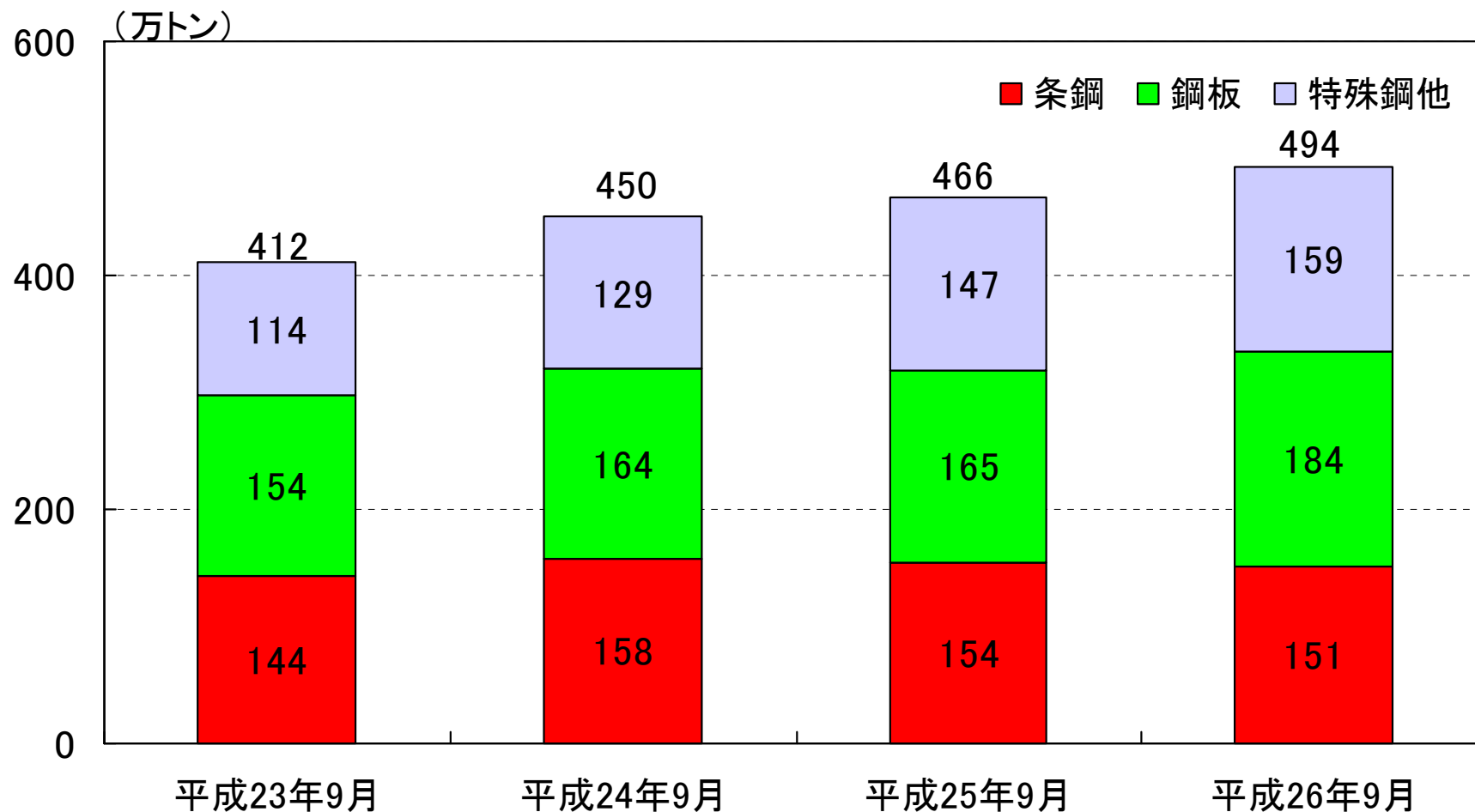
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	423,679	6,810	1.6%
前第2四半期	379,153	6,061	1.6%

当上期中は製造業向けは堅調な推移、一方、建設土木向けは案件は多いものの人手不足などによる工事進捗遅れなどから需要は停滞。市況は荷動きの悪さから下げ圧力にさらされ続けたが大崩れせず、収益を確保できた。

(単位:百万円)



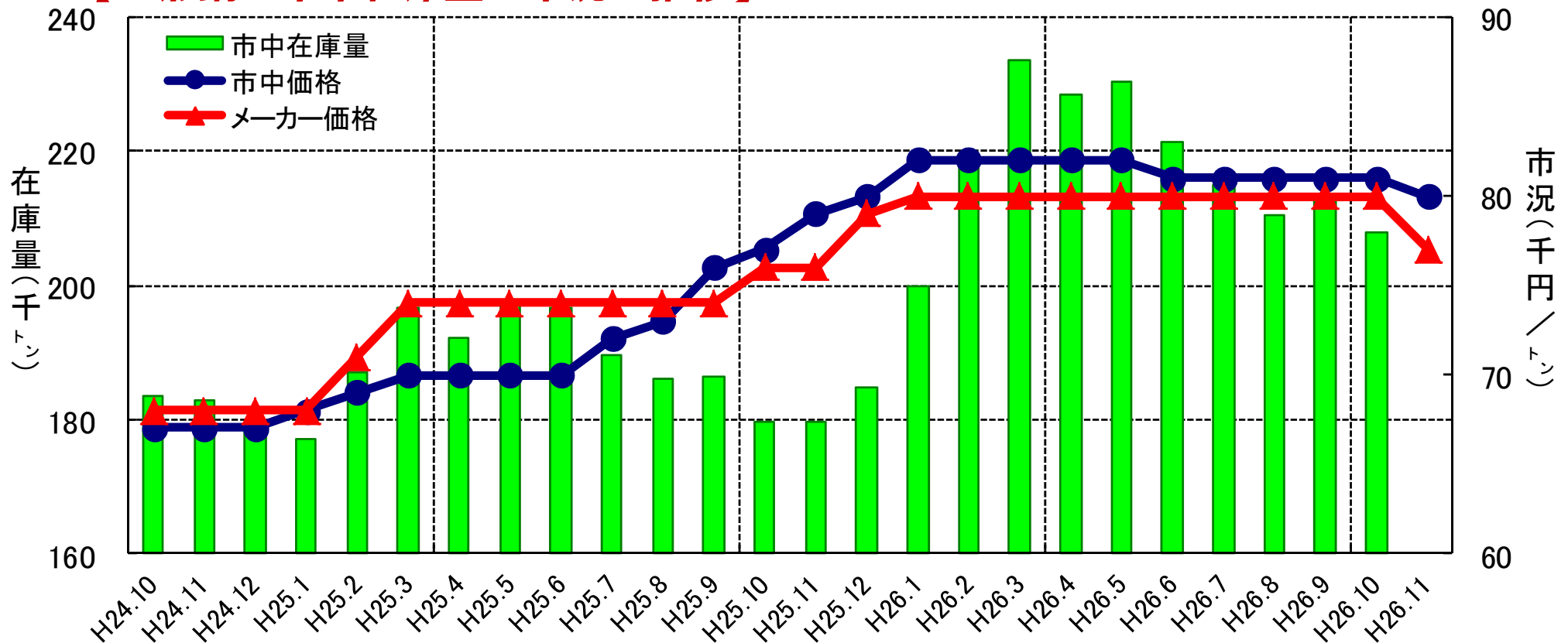
条鋼類は国内建設関連の停滞から頭打ちとなったが、鋼板類は堅調な国内向けのみならず、海外向けも復調。
特殊鋼他の増加は主にスラブや線材などの取扱い増による。



人手不足や入札不調による建設物件の停滞から需要は頭打ち状態に。原料価格が下落するも、鉄鋼メーカーは将来需要の確実性や電力コスト等の上昇から価格を維持し、市況も小幅の下げに留まった。

下期は東京製鉄の値下げを機に、底値感が出るか、需要が期待を下回り、じり安が続くか正念場になる。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

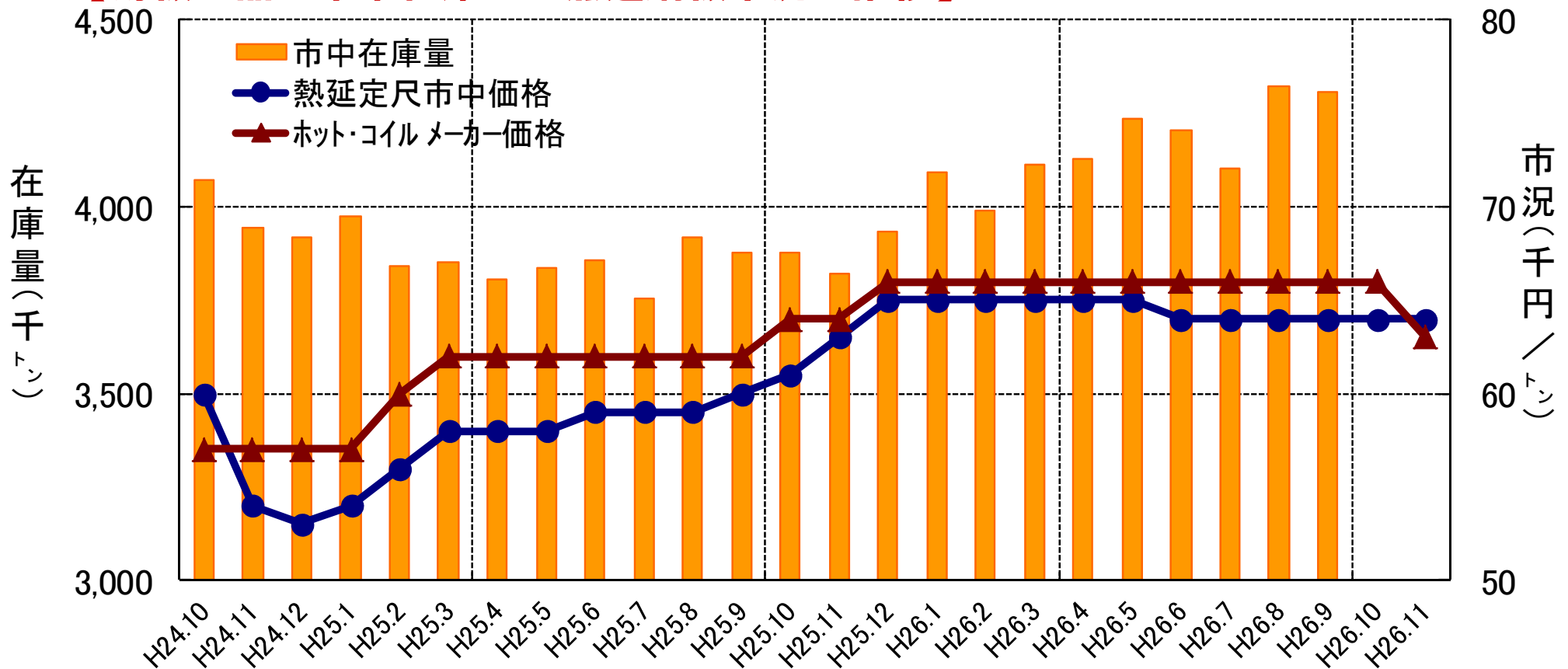


(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

製造業の稼働は概ね堅調も、スポットマーケット需要を喚起するには至らず、店売り市況は弱含みで推移した。

紐付分野の需要も消費税率アップ後の消費減退の影響が徐々に表れ、市中在庫が上昇、東京製鉄の11月契約の下げの影響を含め、今後の推移が注目される。

【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】

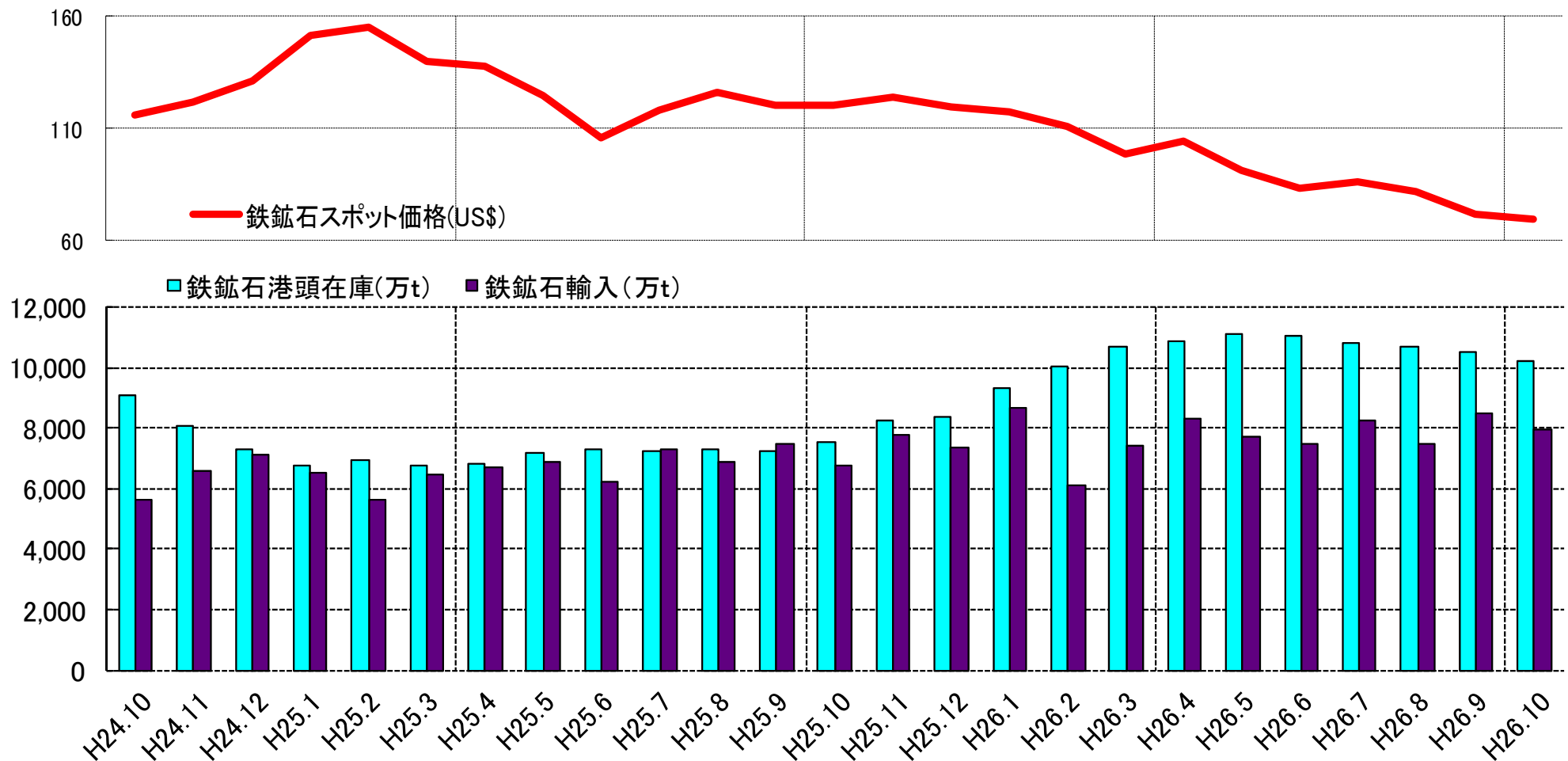


(出所:在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

中国の輸入鉄鉱石市況は、前期からの下落基調が継続。中国の需要減退の中で、能力を増強した大手山元の安値オファーが続き、下げ足を強めた。

港頭在庫も減少傾向にあるものの1億トン超で推移、在庫調整が進んでいない。

【中国の鉄鉱石市場】

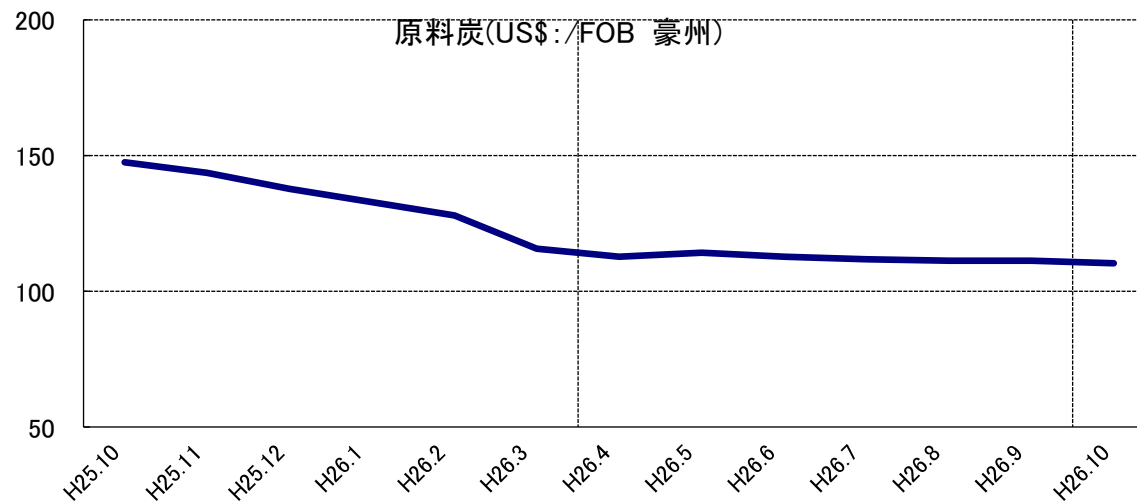


(出所：我的鋼鐵、中国海関統計)

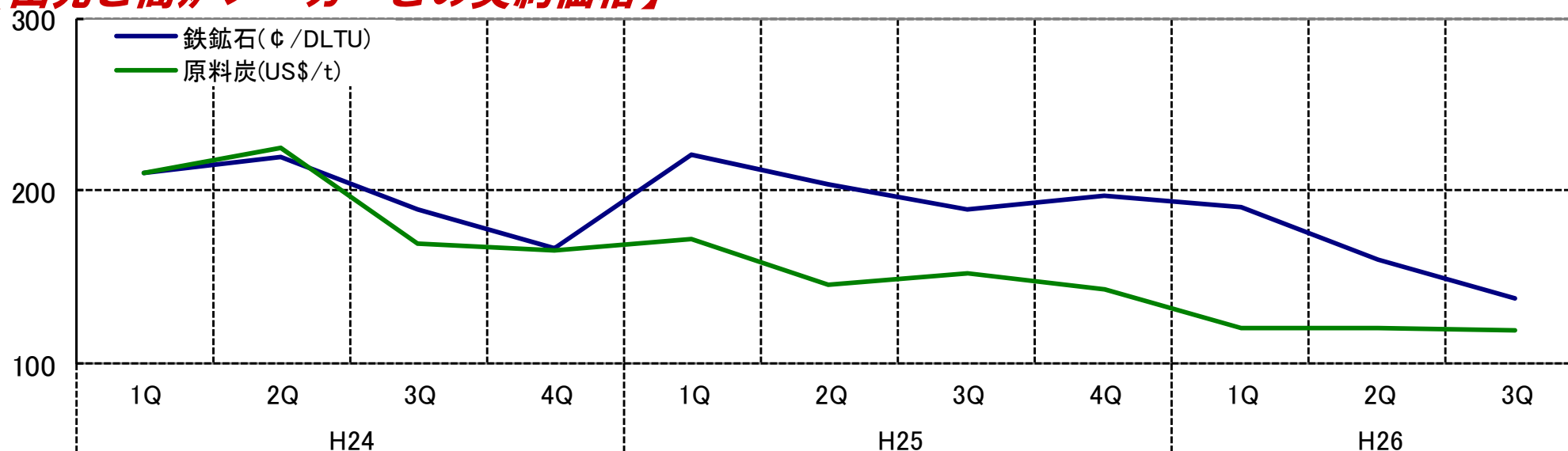
原料炭も需要は停滞するも、鉄鉱石ほどの過剰感はなく、弱含み横ばいでの推移に。

今期の山元との契約価格は、鉄鉱石が市況を反映して期を追うごとに下落、原料炭は第1四半期での下げ後、横ばいとなった。

【原料炭価格の推移】



【山元と高炉メーカーとの契約価格】

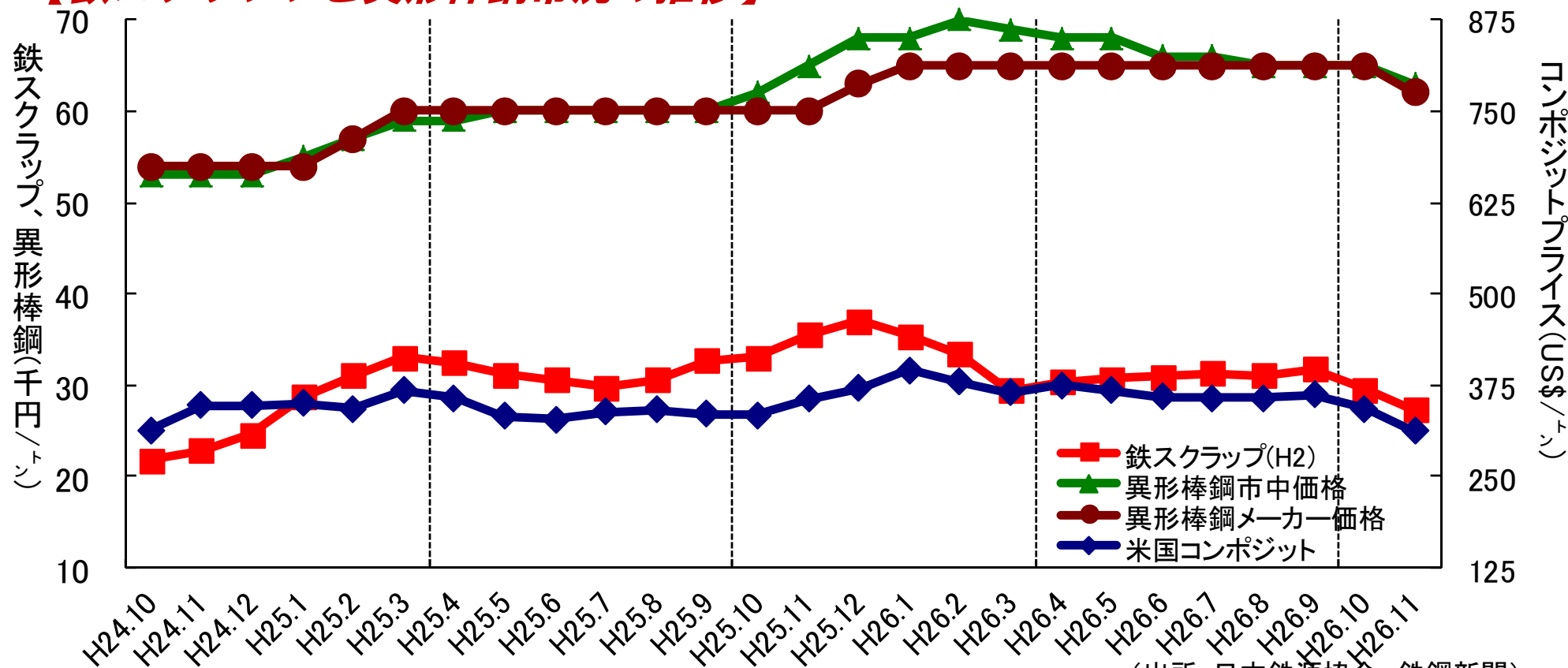


(出所:各種報道)

スクラップ市況は、日本は発生水準の低さから、米国は電炉稼働の堅調さから横ばい推移。一方、トルコなど他地域の価格は、中国からの割安なピレット輸出が増加するとともに下落基調に。

鉄筋市況は、足元は停滞感があるものの、先々の建設需要期待からメーカーは強気姿勢を維持し、弱含みながら大きな値崩れなく推移。

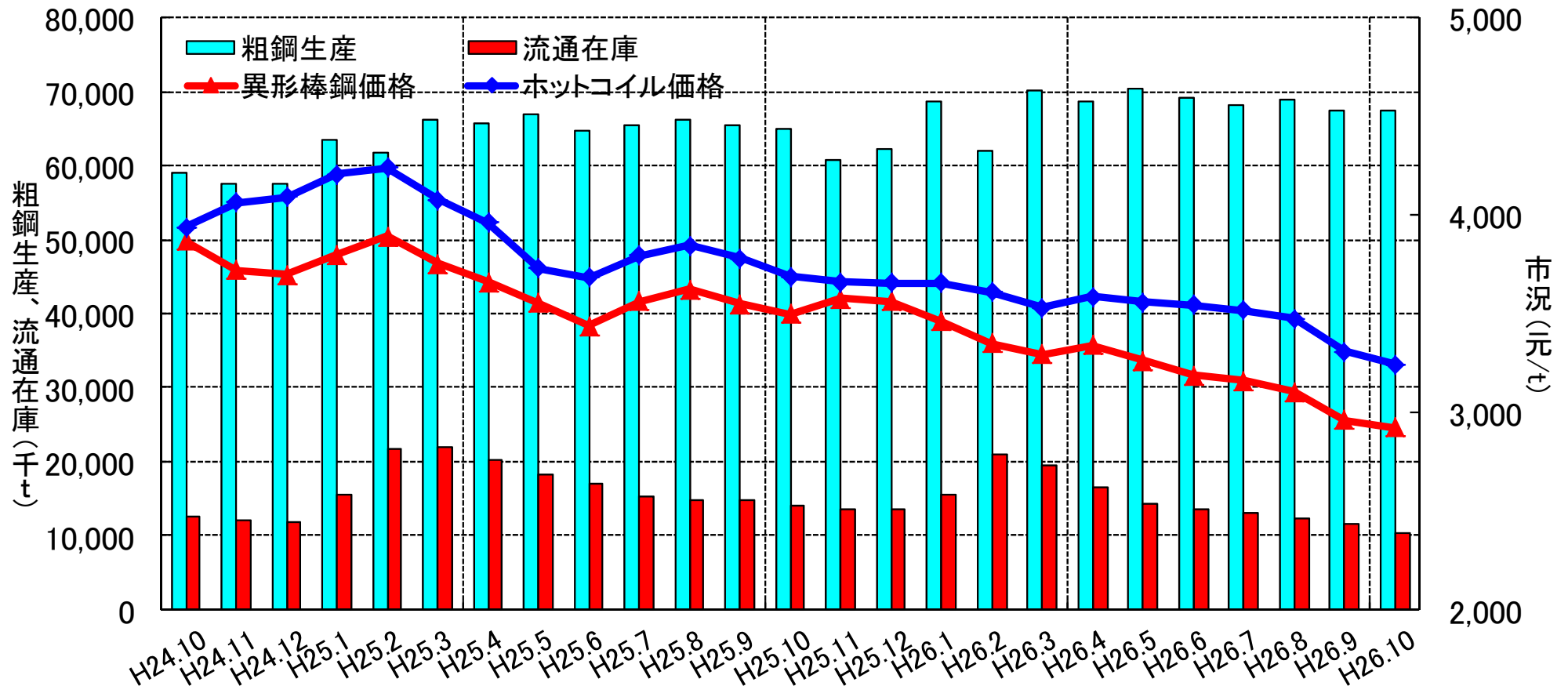
【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】



鋼材需要が低迷する中でも、粗鋼生産は高水準を維持しており、生産調整が進んでいない。一方で市中在庫は減少傾向にあり、輸出が拡大している。

市中価格は需要低迷を反映して、下げ基調が続いている。

【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



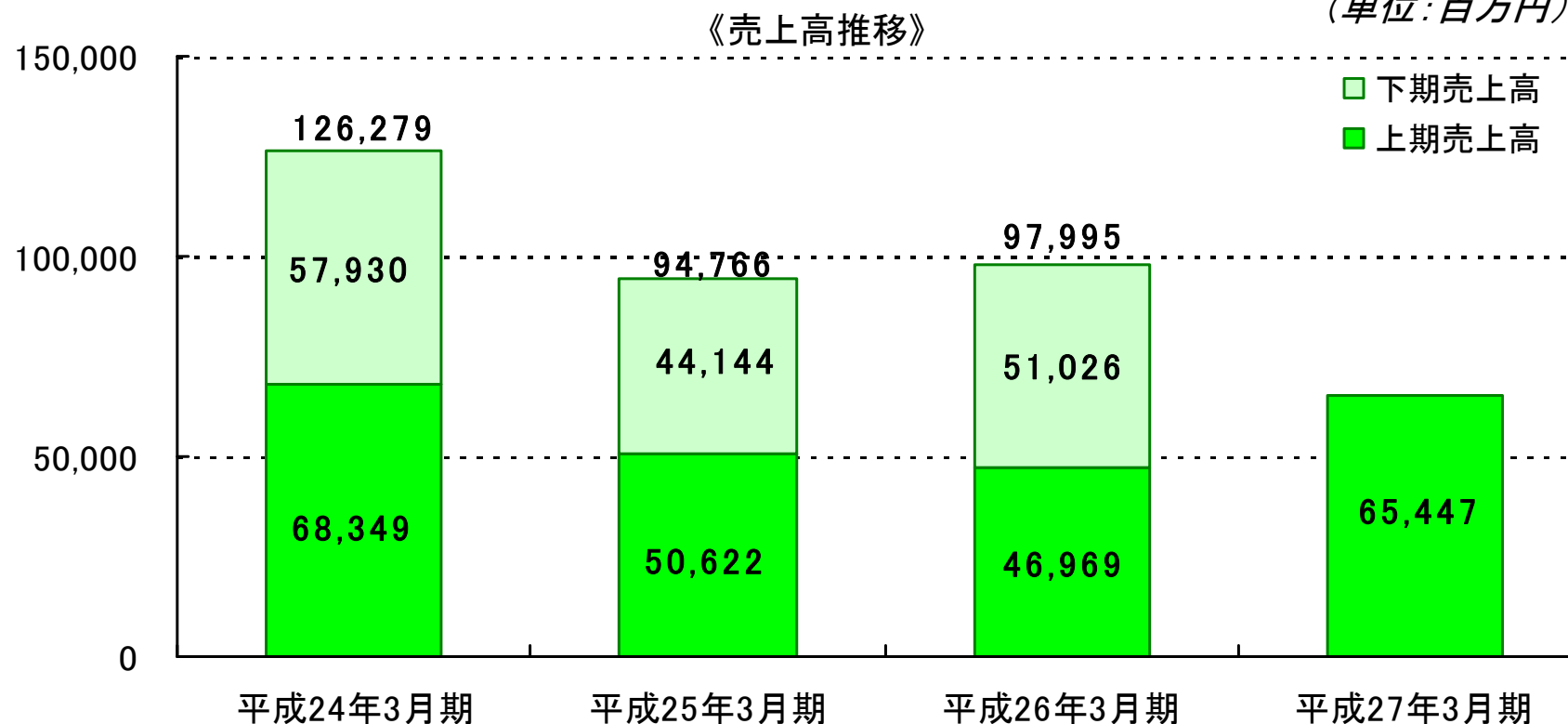
(出所: 日本鉄鋼連盟)

(単位:百万円)

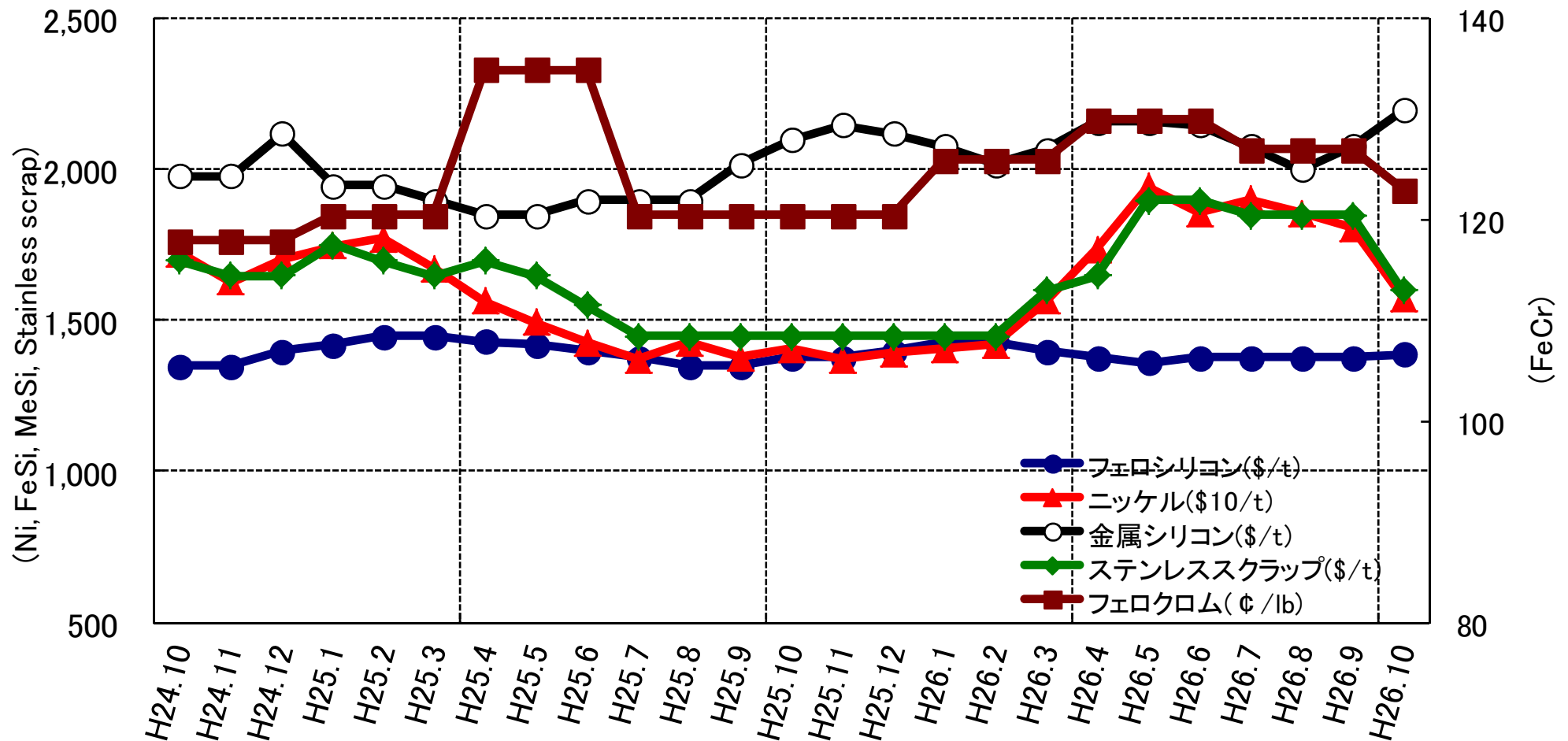
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	65,447	△27	△0.0%
前第2四半期	46,969	1,140	2.4%

ステンレスメーカーの稼働率が改善し、他品種含め需要は増加。価格の上昇も相まって販売収益は堅調だったが、上期終盤にかけての円安の急速な進行により、外貨建債務の時価評価において多額の為替差損が発生し、セグメント利益を押し下げた。

(単位:百万円)



インドネシアのニッケル鉱石禁輸措置の発動により、ニッケル価格が高騰、ステンレススクラップへの原料シフトの動きによりスクラップ価格も上昇した。足元では金融環境の変化などの影響もあり、下落に転じているが、その他の品種は概ね堅調推移。



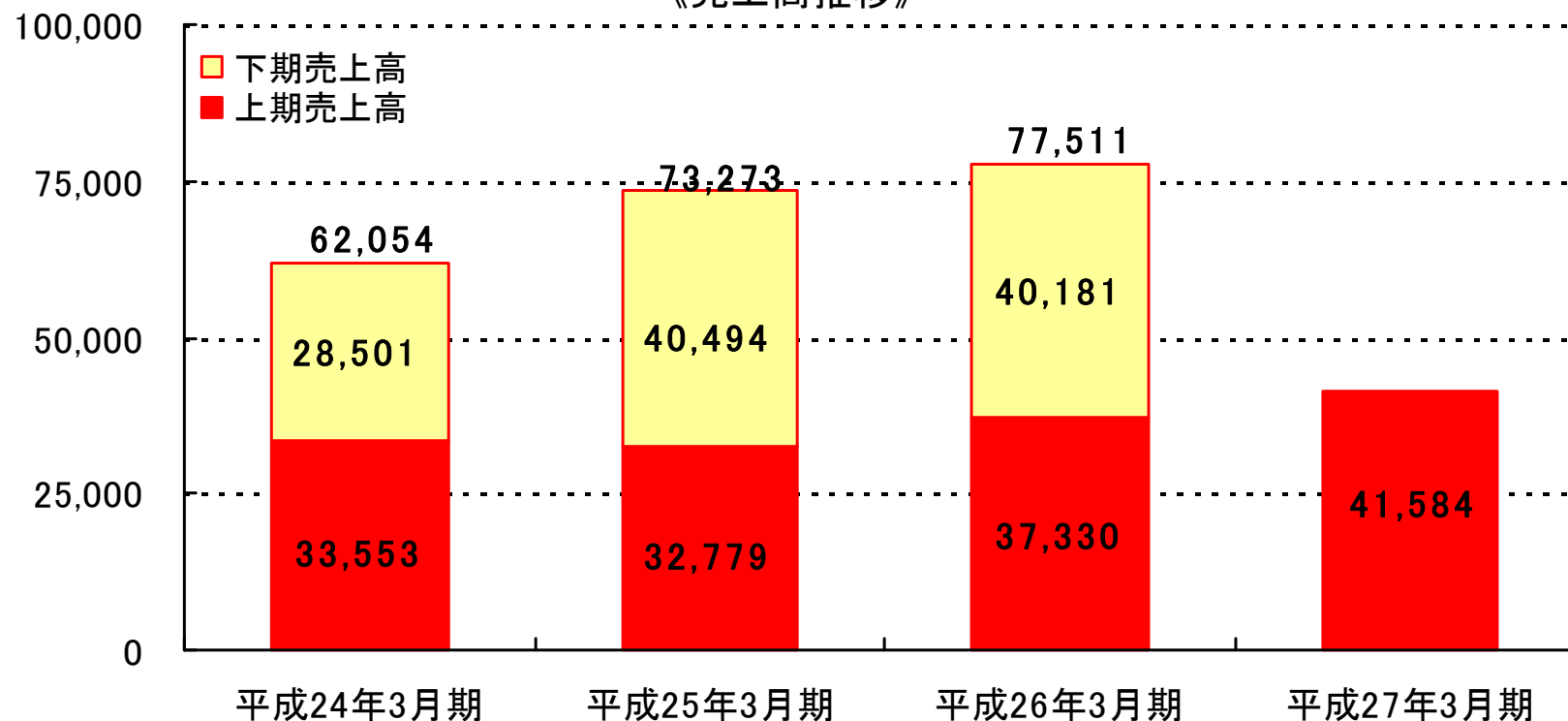
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	41,584	175	0.4%
前第2四半期	37,330	682	1.8%

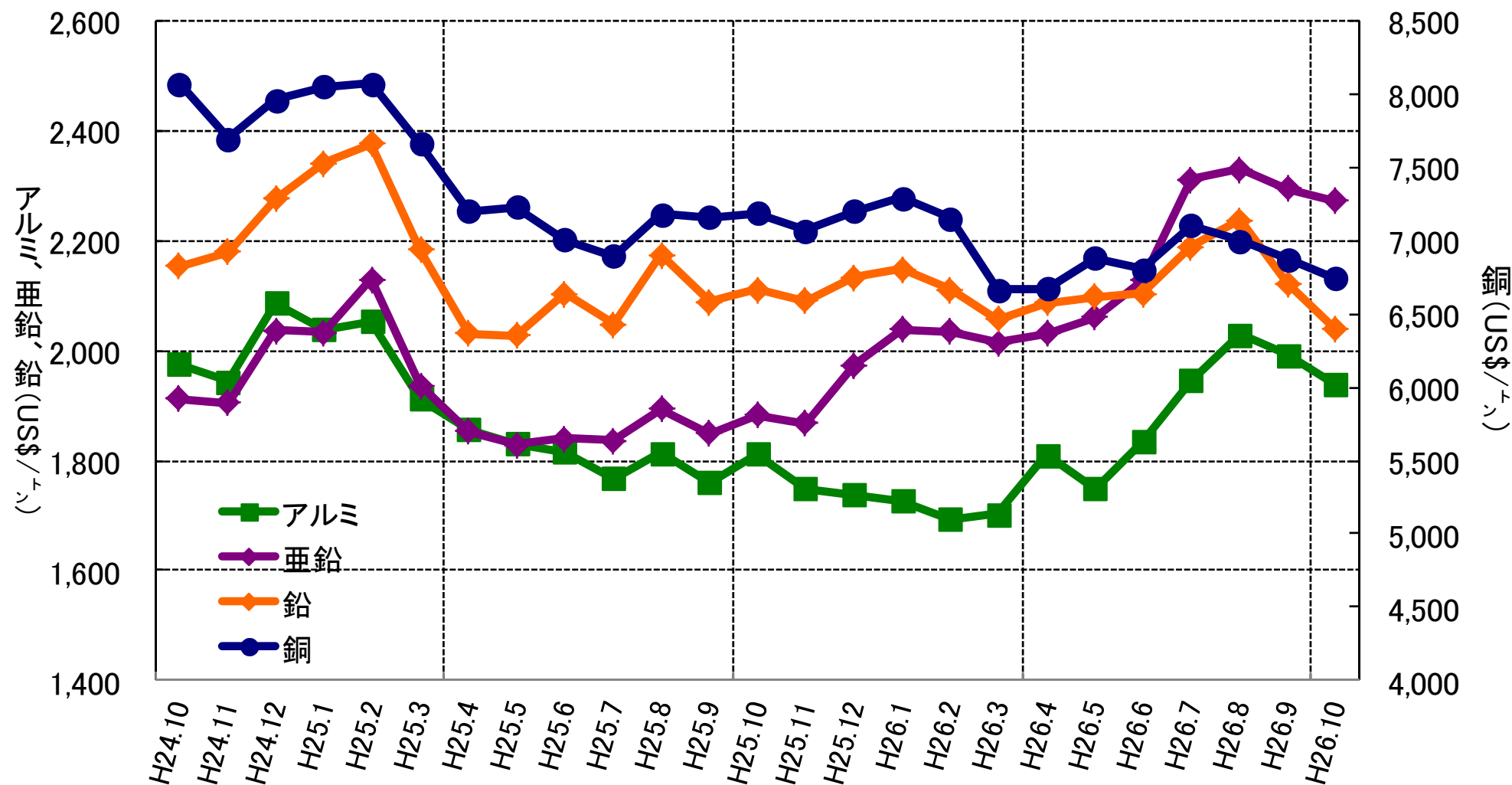
LME価格は金融環境の影響を受けて上げ下げあるも、上げ基調の品種が多かった。アルミニウムや貴金属屑など需要面も堅調に推移。一方で、発生は依然として低水準で、集荷競争が激しくコストアップ要因となり、採算的には厳しい状況が続いた。

《売上高推移》

(単位:百万円)



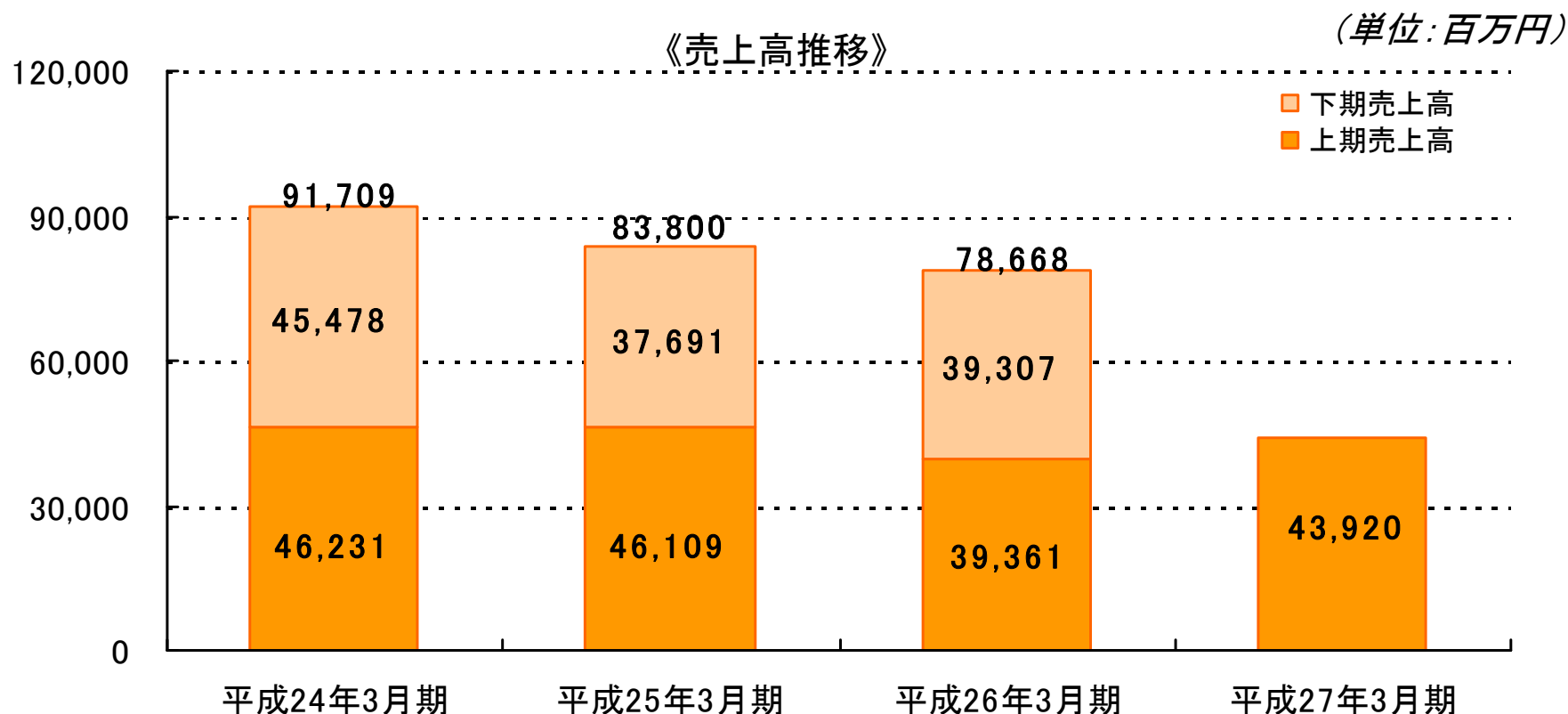
LME価格は個別の経済トピックスに反応して上げ下げあるものの、アルミニウムは実需も好調で強い基調が継続、一方、銅は中国需要の低迷、架空担保融資問題、供給能力の増加などから全体的には軟調な動きに。



(単位:百万円)

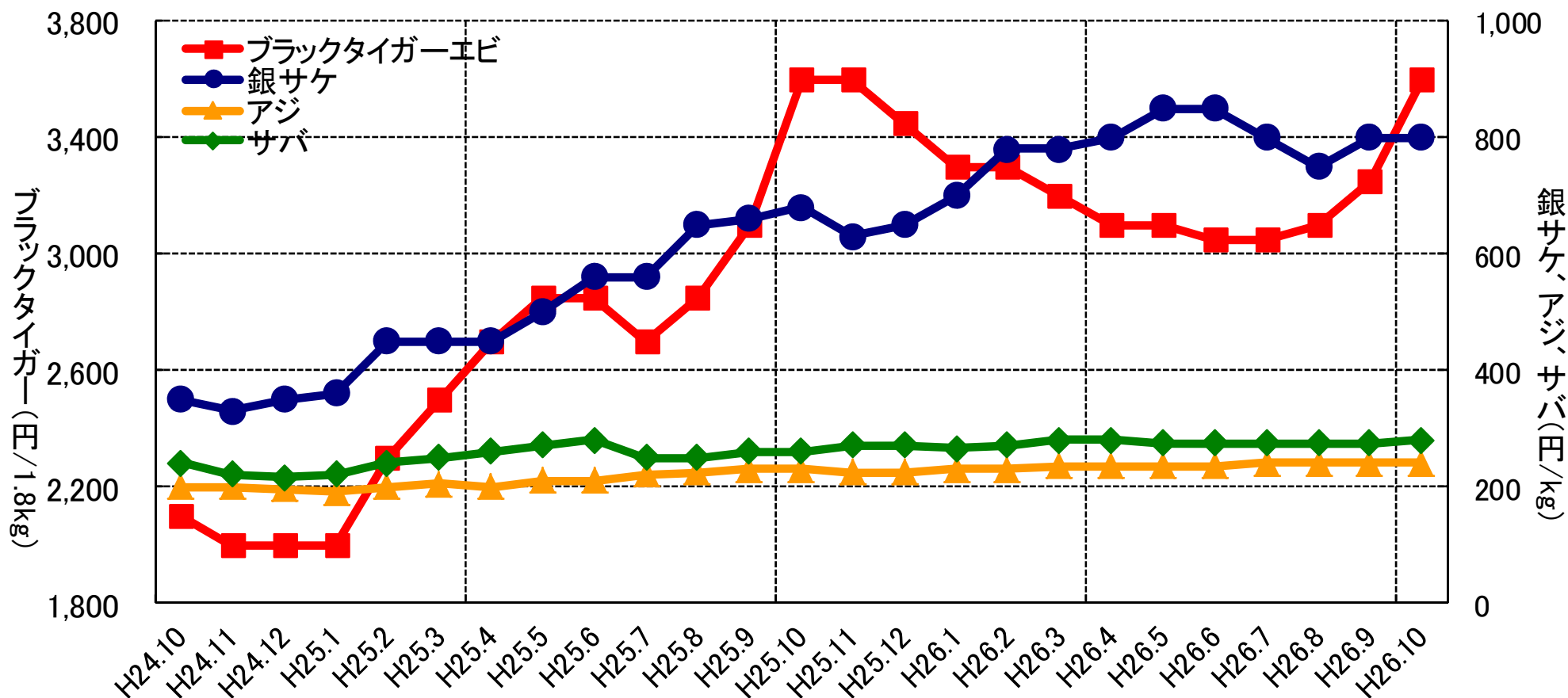
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	43,920	593	1.4%
前第2四半期	39,361	793	2.0%

国内需要はエビやサケなどの価格高騰を嫌気して低調に推移したが、価格水準が全般的に前年同期より高く、増収要因に。一方、利益は上昇相場だった前年同期に比べ、天井感がでた当期は利幅が縮小した。



養殖サケは高値による需要減から一旦下落に転じたが、その後、ロシアがチリ産サケ市場に参入してきたことで再び上げ基調に。

高値疲れから下落に転じていたエビは東南アジアでの不漁や中国の買い付け増、円安の進行により輸入が減少し、再び上昇している。

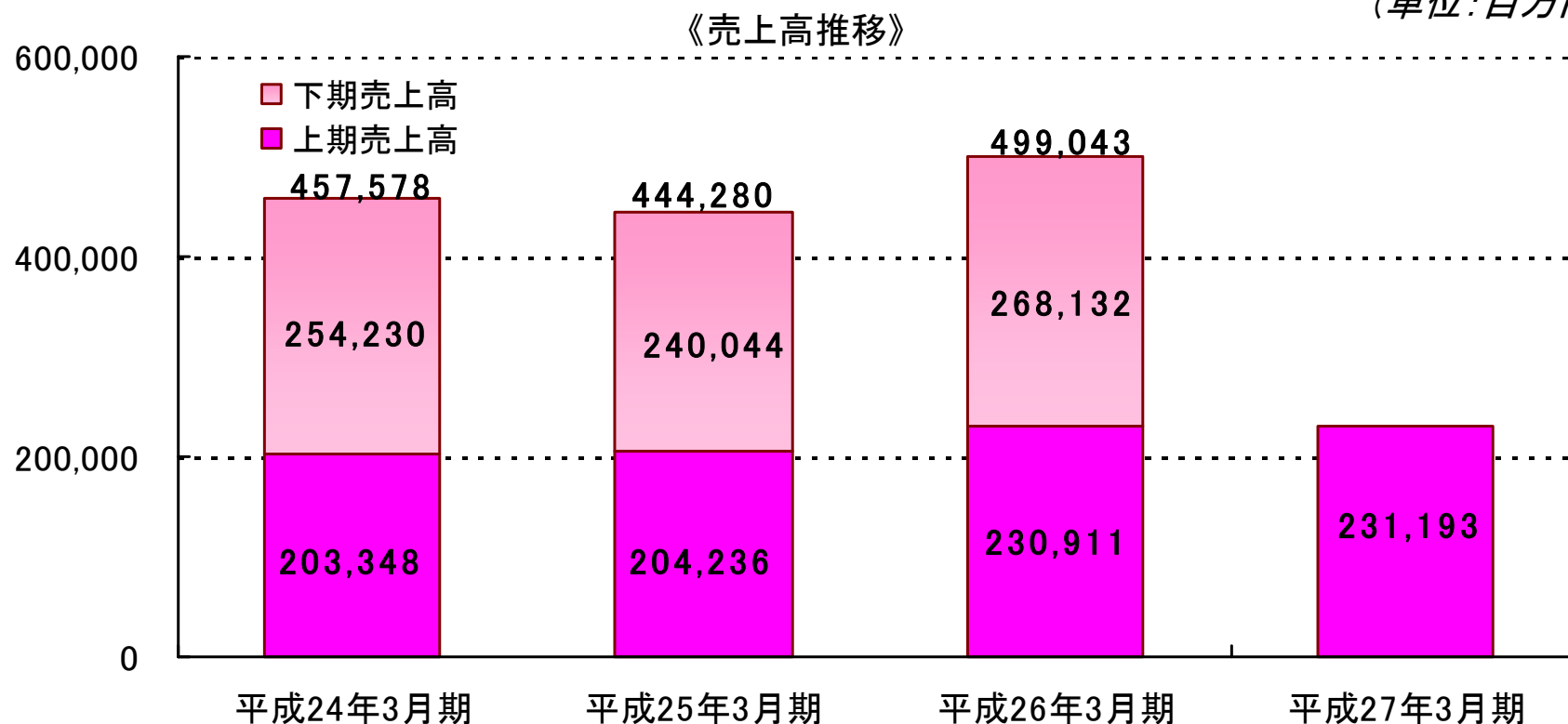


(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	231,193	1,204	0.5%
前第2四半期	230,911	811	0.4%

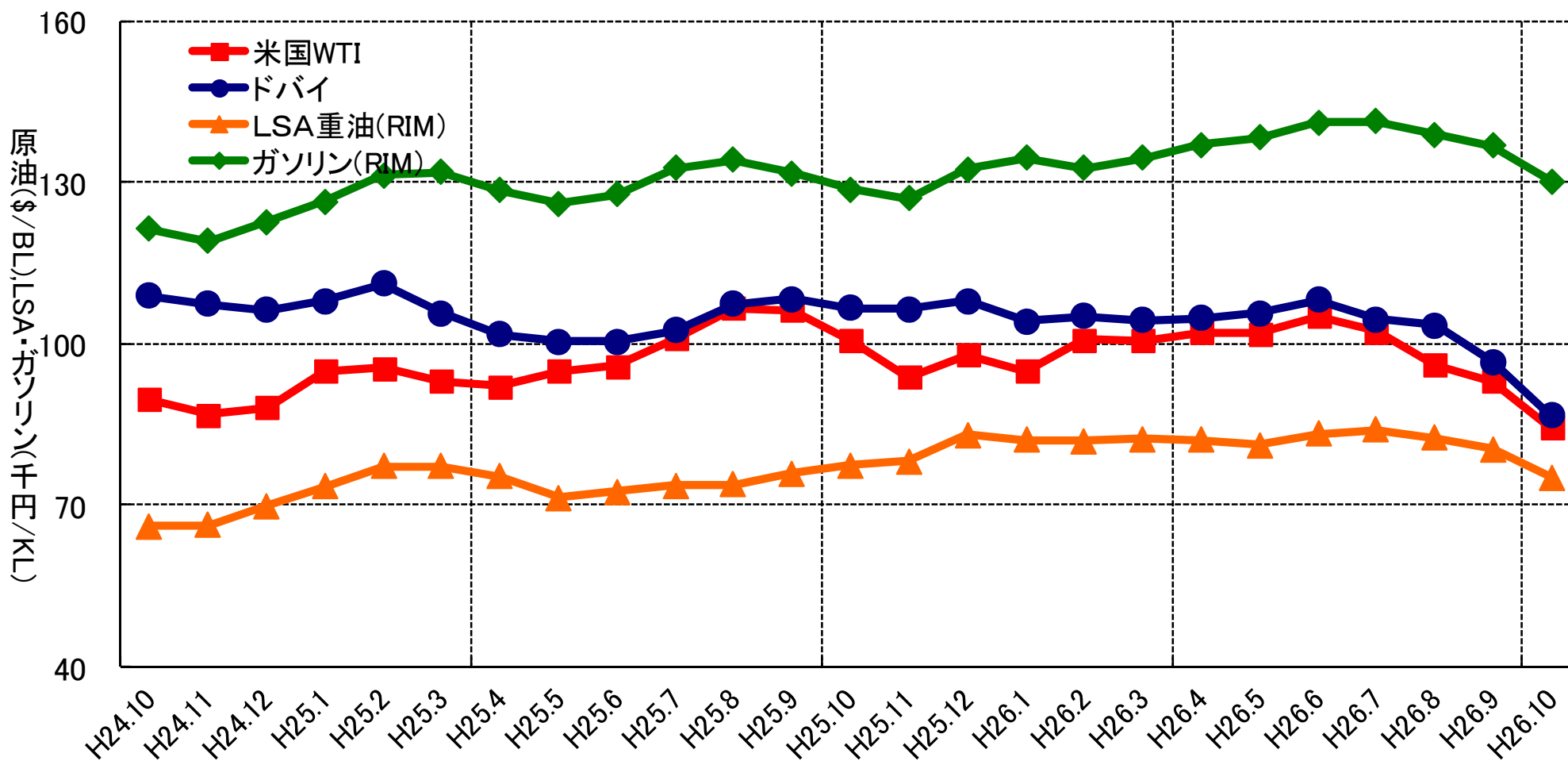
産業用燃料需要が低調に推移する中、末端の販売競争は激しく、採算面では厳しい環境となったが、ガソリンの販売増が収益をカバーした。

(単位:百万円)



原油価格は中東やウクライナ情勢などの影響で強含んでいたが、供給不安が薄れるとともに、世界経済の停滞から下落基調に転換。

製品市況も原油価格の下落や天候不順、電力向け需要の減退などから弱含みで推移した。



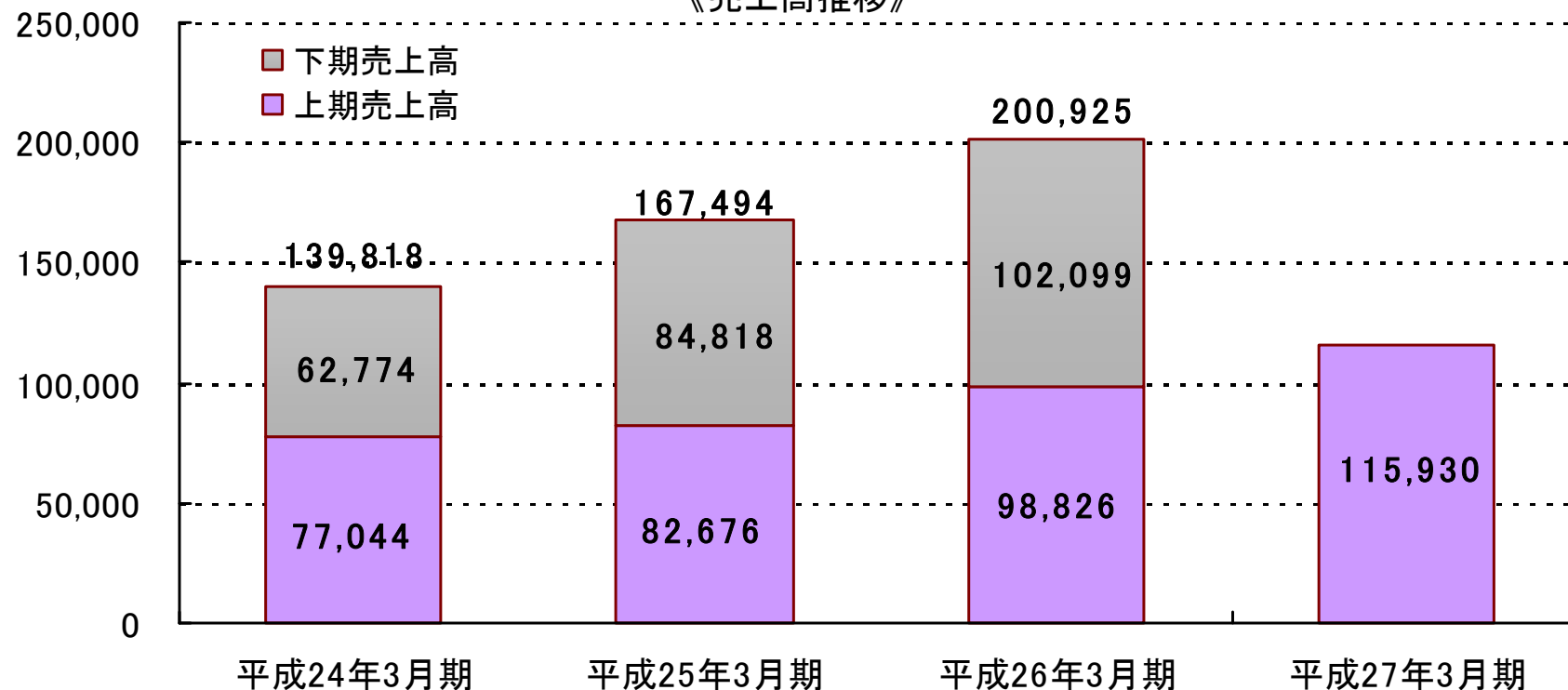
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	115,930	355	0.3%
前第2四半期	98,826	△188	△0.2%

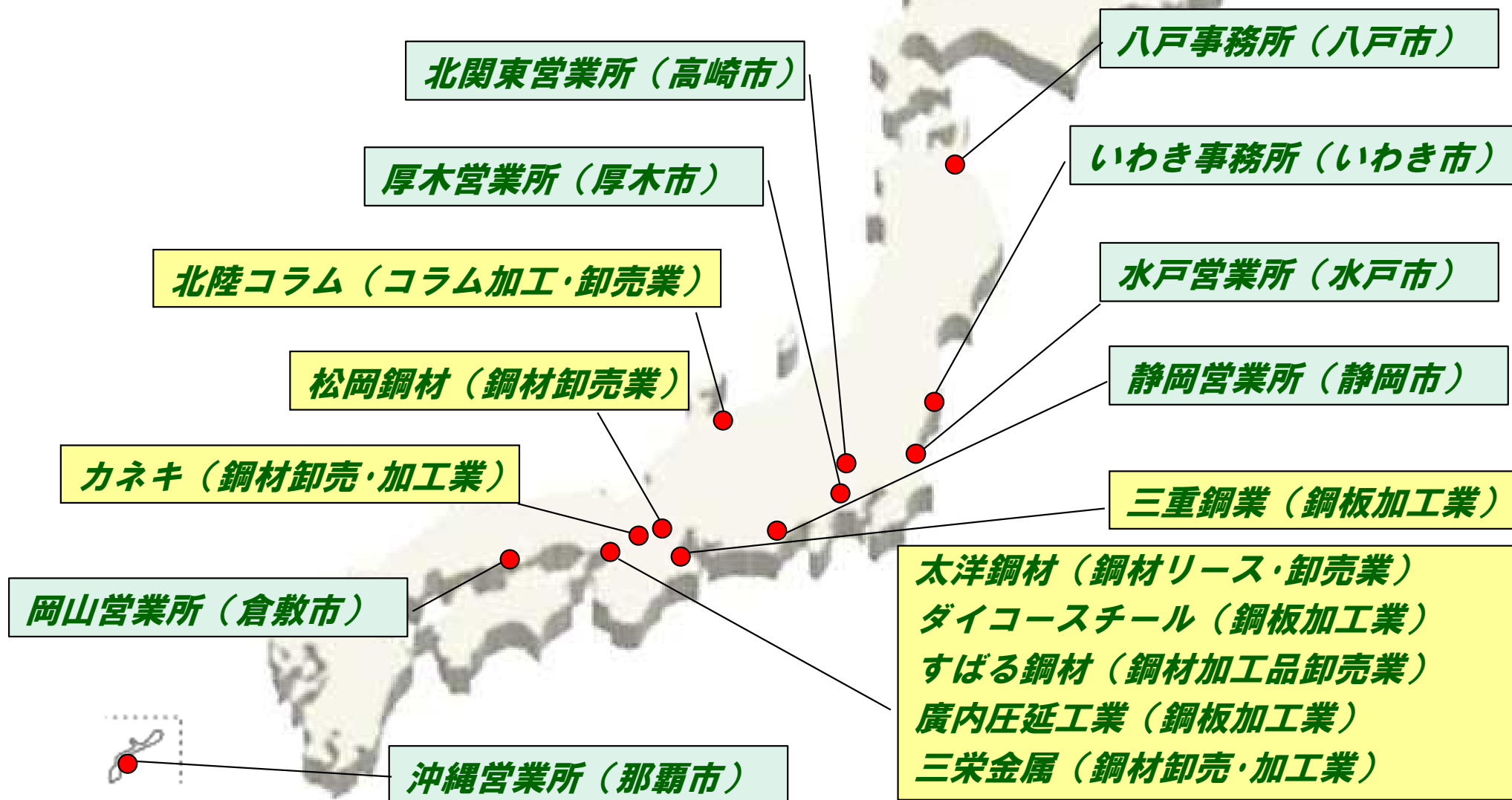
HANWA SINGAPOREでの船用石油の取扱い増加などが売上増に寄与。損益面は機械部門でのレジャー機械の完工収益により改善した。

《売上高推移》

(単位:百万円)



地域需要、小口需要の取り込みを図る「そこか（即納・小口・加工）戦略」を推進するため、地域特約店と共同営業する常駐拠点の増設や機能のある中小の鋼材卸売・加工業者のグループ化を進めている。



将来的なASEAN地域の成長需要を当社のビジネスモデルで取り込んでいくために、現地有力企業とのアライアンスや日系企業との共同進出を拡大している。

【主要なアライアンス先】

タイ

PCM Processing (Thailand) (カラー鋼板製造加工業)
Furukawa Unic (Thailand) (クレーン部品製造業)

マレーシア

Nippon Egalv Steel (メッキ鋼板製造業)
TATT GIAP group (鋼材製造加工、卸売業)
Eversendai Corp. (鉄骨加工、工事施工業)
OM Holdings (マンガン、シリコン製品製造業)
TATT GIAP Steel Centre (鋼板加工業)

ベトナム

SMC Trading Investment (鋼材卸売業)
Nippon Steel & Sumikin Pipe Vietnam
(鋼管杭製造・販売業)
SMC Toami Limited
(ワイヤーメッシュ製造・販売業)

シンガポール

HG Metal Manufacturing (鋼材卸売業)

インドネシア

PT. Araya Steel Tube Indonesia (パイプ製造業)
PT. Hanwa Royal Metals (非鉄金属リサイクル業)
PT. Kapurindo Sentana Baja (仮設リース業)
PT. Indonesia Guang Ching Nickel & Stainless
(ニッケル銑鉄製造業)

平成27年3月期(通期)の連結業績予想

当上期は為替差損の発生から、経常利益以下の進捗が遅かったが、上期末の時価レートへの換算替えによる瞬間的なものであることから、通期予想は据え置きとしている。

配当は基礎的な利益水準が向上していることを受けて、中間配当は7円50銭、期末配当7円50銭に増配している。

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通期予想	平成26年3月期
売上高	861,116	1,750,000	1,682,503
営業利益	9,019	19,800	16,252
経常利益	6,861	17,500	14,698
当期純利益	3,981	10,600	7,896

	年間	中間	期末
1株当たり配当金	15円00銭	7円50銭	7円50銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。